

かなから教えていませんか

あとがき

落馬して、脳障害で植物人間になった福永洋一騎手が、わが国の医学界では治癒不可能と診断されましたが、アメリカのグレン・ドーマン博士の指導により、着実に快方に向ってゐます事は、度々テレビで報道されましたので皆さん御存じの事と思ひます。このドーマン博士は、脳障害児指導の過程で「アルファベットの学習は、ワードの学習よりもずっと難しい」事を発見しました。

アルファベットを使ってゐる国では、昔から、先づアルファベットを学習させ、これを習得してからワードの綴りを学習させてゐます。この方法は今でも変わりませんが、ドーマン博士は違ひます。博士は、最初からワードを学習させます。アルファベットは表音文字なので、初めて文字を学ぶ幼児、特に脳障害児には関心が有てず、いくら学習させてもなかなか覚えられません。

所が、具象性に富んだ、関心が有てるワードは、容易に覚えらるからです。これは、私が発見した「かなは覚え難く、漢字は覚え易い」という事と原理は全く同じです。

この点に着目した私は、当時“楽しい漢字”を発売してゐた日本リーダーズダイジェスト社と、幼児開発協会(会長は井深大ソニー社

長)に計り、博士をわが国に招く事になりました。昭和47年6月、博士は来日して、東京で二回、大阪と神戸で各一回、四回の講演会が催されました。

この時、私は博士に「二人がそれぞれに発見した教育法は、原理が全く同じである。故に、この教育原理を“石井・ドーマン方式”と名付け、二人で協力して、この教育法を世界に広める事に努力しようではないか」と提案、博士の快諾を得ました。

その翌年、フィラデルフィヤの博士の研究所で開催された第六回人間能力開発大会で、私は「幼児期の漢字学習は、幼児の智能を高める働きがある」といふ命題で発表し、「この研究は人類の進歩に貢献するものである」との評価を受け、名誉の“金賞牌”を受けました。

この時博士は立ち上って「石井教授は実に幸福な人である。教育を根 から覆す様な主張が、既に三百もの幼稚園で受入れられてゐるといふ。この様な事は他の国では考へられない。日本だからであらう。石井教授は日本に生れたお蔭で、生存中にその主張が受入れられた。実に羨ましい程幸福な人である」と祝福してくれました。すると、満場の学者たちが一斉に立ち上り、万雷の様な拍手を送ってくれ、そ

かなから教えていませんか

あとがき

れは私が席に戻るまで続きました。その光景は今も鮮かです。

私が博士のお宅に滞在中、博士は「この脳障害児たちがばりばりと本を読んでゐるのに、道路一つ距てた向ひの小学校では、アルファベットから学習させてゐるので、正常児なのに本が読めないでゐる。私の教育法は道路一つ超えられないのである」と仰って嘆かれました。だから、日本の全国各地で受入れられてゐる私が羨ましかったのだと思ひます。

然し、亡くなられるまで私を強く支援して下さった井深会長は「石井方式は、言はば教育界における地動説であるから、頭で考えただけではなかなか理解し難い」と仰ってゐました通り、石井方式を真に理解してくれる人は極めて少なく、決してドーマン博士に羨ましがられる程のものではない、と思つてゐます。

今年石井方式を世に唱へて51年、半世紀を越えました。いかに理解され難いとは言へ、もう少し普及させなければと思つて居りました所、十数冊に及ぶ私の旧著を要約したものが、折り良くアート印刷(株)の手に依つて刊行される運びになりました。同社パル事業部の尾澤あきつ、松井亜沙子両氏の二年間に亘るお骨折で、旧著の精髓

が見事に抽出され、量こそ少ないけれども実に読みごたへのある書物に生れ変りました。石井方式に関するどの本をお持ちの方でも、この一冊だけはぜひと、お奨めしたい本になりました。

最後に、この企画を立てて推進して下さい下さったアート印刷(株)代表取締役社長の有松敏樹氏、同社の馬場哲弥氏、これまでに立派に纏めて下さった尾澤、松井両氏、本書に推薦文をお寄せ下さった向山洋一、土屋秀宇両先生に感謝申し上げます。

平成十四年七月七日

石井 勲